地球のためにできること

作・絵 / 尾野 久子

地球環境を守るために、何か行動を起こしてみたい。

だけど、いったい何から始めたらいいのだろう？

そう思っている方も多いと思います。

この冊子は気候変動対策に関する取り組みを

身近に感じられるようにと願い、制作しました。

地球のためにできること

発行 / 鳥取県生活環境部脱炭素社会推進課

作・絵 / 尾野 久子

小学生のひなたとはるとはゲームが大好き。お互いの家も近いので、
放課後は、はるとの家でゲームをするのが日課となっていました。

「はるとくん、今度は何を作ろうか？」

ひなたが聞きました。

「ジャングル！ジャガーとか、めずらしい鳥がいるような…」

はるとがこたえます。

「いいね！私はケーキも売ってるパン屋さんを作りたいな」

「じゃあ、街の中心にパン屋さん、街のはずれにジャングルを作ろう！」

ふたりが今、夢中になっているのが『まちづくりゲーム』。
道路を通したりお店を作ったり、自由に街を作っていくゲームです。
ひなたとはるとは、ふたりで力を合わせて街を作っています。

ピカッ。ゲームをしていると、窓の外でいなずまが光りました。

「今、光った？」
ゲームの手を止めずにひなたはつぶやきます。
ザアァァァーーーーーッと、はげしい雨つぶが窓を叩き出しました。
「学校から帰ってくるときは晴れてたのにね」
はるとも、ひとことそう言ったきり、ゲームに夢中です。

ゴロゴロゴロ…ガシャーン！！！

大きな大きなカミナリの音とともに、あたりが真っ暗になりました。

「画面消えちゃった！！！」

ひなたがさけびます。

「せっかくめずらしいリスザルを手に入れたばかりなのに！
お母さーん！電気消えちゃった…！」

はるともお母さんを呼びましたが…

キッチンにいたはずの、お母さんは返事をしません。

「お母さん？お母さんってば！」

何度呼んでも、あたりはしんと静まり返ったまま。

夕方だったはずなのに、部屋の中はなぜか夜みたいに真っ暗です。

ひなたとはるとは、だんだん心細くなってきました。

突然、周りがパッと明るくなりました。

まぶしい！と思ったその瞬間、ひなたとはるとは、あたりにひろがっている景色にびっくり！なんと…ふたりが今、夢中になって作っている『まちづくりゲーム』の世界にいるのでした。

ふたりは驚きのあまり、しばらくの間ピクリとも動けませんでしたが、そのうちひなたが目を輝かせて言いました。
「すごい！はるとくん、ゲームの中に入っちゃったよ！
あれは、さっき作ったパン屋さんだ！行ってみたい！！」

目の前にあるパン屋さんに入ろうと、ひなたが走り出します。
すると、空からひくい声がひびいてきました。

「ひなたさん、まちなさい。私は太陽の妖怪だ。
きみたちに、今、もとの世界で起こっている
ことを教えてやろう」
そう言うと太陽の妖怪は、ひなたとはるとを
手のひらですくいあげ、雲の上に乗せました。

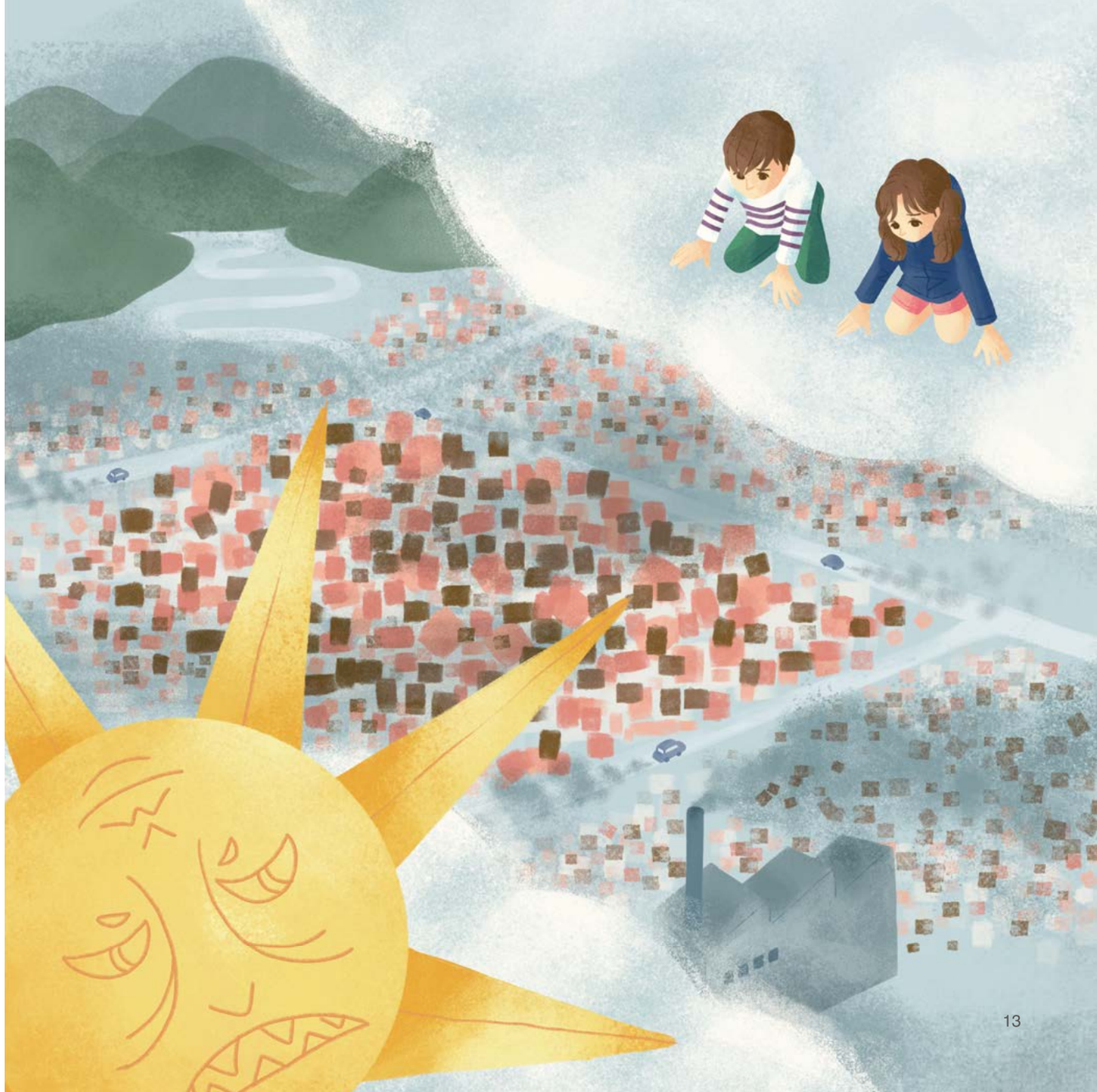
するとカミナリの音とともに、はげしく雨が降り出しました。みるみる
うちに道路は水びたし。パン屋さんの中にも水がどんどん入って
いきます。
「あーっ！せっかく作ったのに…！！」
泣きそうになるひなた。山の近くでは、土砂くずれが起こっています。

しばらくすると雨が止み、今度ははるとが作ったジャングルが燃え
始めました。動物や鳥たちが炎から逃げています。
「わーっ！苦労して集めた動物たちが！！」
はるとも叫び声をあげます。

次は、強い風が吹いて家の屋根を吹き飛ばしはじめます。
「やめてやめて！どうしてこんなことをするの？」
ひなたが太陽の妖怪に訴えました。

すると風がやみ、太陽の妖怪は言います。
「これはな、きみたちの住んでいる地球で実際に起こっていることなんだ。なぜこんなことが起こっているのか、わかるか？」

ふたりはしばらく黙っていましたが、ひなたが口を開きました。
「温暖化が進んでいるから…」
「よく知っているじゃないか。その通りだ」
太陽の妖怪は続けます。
「地球の気温がこんなに変わったのは、CO2という物質をはじめとした『温室効果ガス』が増えすぎたためなんだ。これは工場や車の排ガスなど、社会の発展とともに増えている」
ひなたとはるとは、工場や車から出る排ガスで、街の空気がどんどん汚れていくのを見つめています。



「きみたちは、植物や海が CO2 を吸収する働きを持っているのは知っているな？」ふたりはうなずきます。「そこでだ。きみたちにやってもらいたいことがある。この世界の『温室効果ガス』が出る量と、植物や海が吸収する量を同じに、つまり『カーボンニュートラル』な状態にしてほしいんだ」
そう言う太陽の妖怪の横に、温室効果ガスが出る量と吸収される量の割合が見えるグラフが現れました。「そうすれば、もとの世界に返してやろう」

「カーボンニュートラル？わかりました！やります！」
せっかく作った街をめちゃくちゃにされて、くやしくて悲しいひなたとはるとはすぐに答えましたが…
「でも、いったい何からやればいいんだろう…？」
すると、聞き慣れた声が聞こえてきました。
「まずはどんなものが『温室効果ガス』を出しているのか、まとめてみるのがいいと思うわ」
ふり返ると、はるとのお姉ちゃんが立っています。お姉ちゃんは大学で地球環境について学んでいて詳しいのです。
「お姉ちゃん…！！」
ふたりは安心したように駆け寄りました。

「身近なところで言うと、一番割合が大きいのは家の電気と車の排ガスね。この電気は化石燃料っていう石炭や石油を燃やしたエネルギーで作っているのよ。コストが少なくて、たくさんの電気を作ることができるの。でも、燃やす時に CO2 がたくさん出るし、いつかは無くなってしまうものなの。さて、これをどうするか、なんだけど…」

お姉ちゃんが言うと、ひなたがすかさず言いました。

「はいはい！太陽の光から電気を作る太陽光パネルに代える！！」

ひなたの家は、屋根に太陽光パネルがあるので、すぐ思いついたのでした。お姉ちゃんは言いました。

「そうね。まずは電気を作るエネルギーを、化石燃料から『再生可能エネルギー』に置き代えることが大事ね」

「車の排ガスについては、どんなアイデアがあるかな？」
続けて質問するお姉ちゃんに、はるとが言います。
「電気自動車にする！よくテレビのCMで見てる！」

ふたりは家庭の自家用車を電気自動車に代え、街中に電気自動車が走るようになりました。しかし、移動の途中で充電が切れてしまう人たちもいるようです。お姉ちゃんは言いました。
「あれ、困っている人たちがいるよ。何が必要かな？」
「電気を充電できる場所！」
はるとが答えました。
「そうすると、電気がたくさん必要になってくるね。でも石炭や石油とかはなるべく使いたくないよね。太陽光だけで足りるかな？」
お姉ちゃんはさらに質問します。

「風力発電を作ろう！」
ひなたは以前、海に遊びにいった時に、大きな風車を見かけていたので、そう言いました。